

1 放送による聞き取りテスト (9点)

2 次の各問いに答えなさい。(16点)

問一 次の(1)～(6)の——の漢字の読みがなを書け。
また、(7)～(12)の——のカタカナの部分かいしよを楷書で漢字
に書き改めよ。

- (1) 門扉がひらく。
(2) 還暦のお祝いをする。
(3) 亜熱帯の気候。
(4) 声を潜めて話す。
(5) 人を唆す。
(6) 花瓶に花を挿す。
(7) 学園祭のキカクを決める。
(8) 部屋にじゅうたんをシク。
(9) 感情のキフクが激しい。
(10) 冬晴れの空をアオぐ。
(11) クワしい内容を調べる。
(12) 病院のロウカを歩く。

問二 次の——のカタカナの部分かいしよを漢字で表したとき、その漢
字と同じ漢字が使われている熟語はどれか。

- (1) 彼を生徒会長にオス。
① 捺印 ② 押収 ③ 堆積 ④ 推挙
- (2) 荷台に荷物をノせる。
① 掲載 ② 搭乗 ③ 騎馬 ④ 伸長

3 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(12点)

【I】

その人の心になりて思へば、まことになしからん親のため、妻子のためには恥をも忘れ、盗みもしつべきことなり。されば、盗人を縛め、盗みのみ罪せんよりは、世の人の飢えず、寒からぬやうに、世をば行はまほしきなり。(世の中を治めてほしいものである。)人、恒の産なき時は、恒の心なし。(人は、安定した収入がないときは)人、窮まりて盗みす。(世の中が治まらず)世治まらずして、凍餒の苦しみあらば、とがものが絶ゆるはずがない。(罪を犯す)の者絶ゆるべからず。人を苦しめ、法を犯さしめて、それを罪なはんこと、不憫のわざなり。

(注1) 凍餒 —— 「徒然草」より —— 衣食の乏しいこと。

【II】

孟子曰、「無恒産而有恒心者、惟士為能。」若民則無恒産、因無恒心。苟無恒心、放辟邪侈、無不為已。及陷於罪、然後從而刑之。是罔民也。

孟子曰はく「恒産無くして恒心有る者は、惟だ士のみ能くするをなす。(一般民衆などは)民のごときは則ち恒産無ければ、因りて恒心無し。苟くも恒心無ければ、放辟邪侈為さざる無きのみ。(罪を犯してしまつたその後で、その罪を追いかけるようにして)罪に陥るに及びて、然る後に從ひて之を刑する。是れ民を罔するなり。(これは民を法の網にかけるようなものである)

—— 「孟子」より ——

(注2) 士 —— 学問を修めた、教養のある立派な人。
(注3) 放辟邪侈 —— 勝手気ままで不正な行為。

問一 窮¹ と同じ意味の「窮」を含む熟語を書け。

問二 恒心² の意味として正しいのはどれか。

- ① 道徳に従わない不誠実な心。
- ② 流動的で気まぐれな人間の心。
- ③ 常に変わらない良心に従つた心。
- ④ 生まれながらにして持つてゐる心。

問三 二重傍線部に返り点を施せ。(送り仮名は書かないこと)

問四 是罔民也³ ということについて、【I】ではどのように述べているか。

- ① 罪を犯した者を処罰しなければならぬ政治家は、立場上仕方がないとはいえ、かわいそうだと述べている。
- ② 親や妻子のために仕方がなく盗みを働いたとしても、法律に則れば処罰されるのは仕方がないと述べている。
- ③ 政治は人民のために行われるべきだが、民に恒産が無い状態では、良い政治は行われないと述べている。
- ④ 盗みを犯すものが悪いのではなく、罪を犯さなければ生きにくい世の政治のあり方が悪いのだと述べている。

4 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(32点)

異国語においては、名詞にそれぞれ男女の性別あり。

しかし、貨幣を女性名詞とす。

私は、七七八五一号の百円紙幣(注1)です。あなたの財布の中の百円紙幣をちよつと調べてみて下さいまし。あるいは私はその中に、はいつているかも知れません。もう私は、くたくたに疲れて、自分がいま誰の懐(ふところ)の中にいるのやら、あるいは屑籠(くすかご)の中にでもほうり込まれているのやら、さっぱり見当もつかなくなりました。ちかいうちには、モダン型の紙幣が出て、私たち旧式の紙幣は皆焼かれてしまうのだとかいう噂(うわさ)も聞きましたが、もうこんな、生きているのだから死んでいるのだから、わからないような気持ちでいるよりは、いっそさっぱり焼かれてしまつて昇天しようございます。焼かれた後で、天国へ行くか地獄へ行くか、それは神様まかせだけれども、ひよつとしたら、私は地獄へ落ちるかも知れないわ。

生れた時には、今みたいに、こんな賤(いや)しいていたらくではなかったのです。後になつたらもう二百円紙幣やら千円紙幣やら、私よりも難がられる紙幣がたくさん出て来ましたが、私の生れた頃には、百円紙幣が、お金の女王で、はじめて私が東京の大銀行の窓口からある人の手に渡された時には、その人の手は少し震えていました。あら、本当ですわよ。その人は、若い大工さんでした。その人は腹掛け(注2)のどんぶり(注3)に、私を折り畳(た)まずにそのまま X 置いて、おなかが痛いみたいに左の手のひらを腹掛けに軽く押し当て、道を歩く時にも、電車に乗っている時にも、つまり銀行から家へ帰りつくまで、左の手のひらでどんぶりをおさえきりにおさええていま

した。そうして家へ帰ると、その人はさつそく私を神棚2にあげて拝みました。私の人生への門出は、このように幸福でした。私はその大工さんのお宅にいつまでもいたいと思つたのです。けれども私は、その大工さんのお宅には、一晩しかいる事が出来ませんでした。その夜は大工さんはいへん御機嫌(ごきげん)がよろしくて、晩酌(ばんしやく)などやらかして、そうして若い小柄なおかみさんに向かい、「馬鹿(ばか)にしちやいけねえ。おれにだつて、男の働きというものがある。」などといつて威張り、時々立ち上がつて私を神棚からおろして、両手でいただくような恰好(かっこう)で拝んで見せて、若いおかみさんを笑わせていましたが、そのうちに夫婦の間に喧嘩(けんか)が起り、とうとう私は四つに畳まれておかみさんの小さい財布の中にいれられてしまいました。そうしてその翌朝、おかみさんに質屋に連れて行かれて、おかみさんの着物十枚とかえられ、私は質屋の冷くしめっぽい金庫の中にいれられました。妙に底冷えがして、おなかが痛くて困っていたら、私はまた外に出されて日の目を見る事が出来ました。こんどは私は、医学生3の顕微鏡一つとかえられたのでした。私はその医学生に連れられて、ずいぶん遠くへ旅行しました。そうしてとうとう、瀬戸内海のある小さい島の旅館で、私はその医学生に捨てられました。それから一箇月(かげつ)近く私はその旅館の、帳場(ちやうば)の小箆(こだんす)の引出しにいれられていました。何だかその医学生は、私を捨てて旅館を出てから間もなく瀬戸内海に身を投じて死んだという、女中たちの取沙汰(とりさた)をちらと小耳3にはさみました。(中略)それから私は五年間四国、九州と渡り歩き、めつきり老け込んでしまいました。そうしてしだいに私は軽んぜられ、六年振りでもまた東京へ舞い戻った時には、あまり変り果てた自分の身のなりゆきに、つい自己嫌悪(じこけんお)しちやいましたわ。東京へ帰つて来てからは私はたまたま閨屋(ねむ)の使い走りを勤める女に

なつてしまつたのですもの。五、六年東京から離れているうちに私も変りましたけれども、まあ、東京のvariety⁴ようつたら。夜の八時ごろ、ほろ酔いのブローカーに連れられて、東京駅から日本橋、それから京橋へ出て銀座を歩き新橋まで、その間、ただもうまっくらで、深い森の中を歩いているような気持で人ひとり通らないのはもちろん、路を横切る猫の子一匹も見当りませんでした。おそろしい死の街の不吉な形相を呈^{てい}していました。それからまもなく、れいのドカンドカン、シューシューウがはじまりましたけれども、あの毎日毎夜の大混乱の中でも、私はやはり休むひまもなく、あの人の手から、この人の手と、まるでリレー競走のバトンみたいに目まぐるしく渡り歩き、おかげでこのような皺^{しわ}しわくちやの姿になつたばかりでなく、いろいろなものの臭^{しゅう}気がからだについて、もう、恥^ちずかしくて、やぶれかぶれになつてしまいました。あのころは、もう日本も、やぶれかぶれになつていた時期でしょうね。私がどんな人の手から、どんな人の手に、何の目的で、そうしてどんなむごい話をもつて手渡されていたか、それはもう皆さんも、十二分にご存じのはずで、聞き飽き見飽きていらつしやることでしょうから、くわしくは申し上げませんが、けだものみたいになつていたのは、軍閥とやらいものだけではなかつたように私には思われました。それはまた日本の人に限つたことでなく、人間性一般の大問題であろうと思ひますが、今宵死^{いせ}ぬかも知れぬという事になつたら、物欲も、色欲も綺麗^{きれ}に忘れてしまうのではないかしらとも考えられるのに、どうしてなかなかそのようなものでもないらしく、人間は命の袋小路に落ち込むと、笑い合わずに、むさぼりくらひ合うものらしゅうございます。この世の中のひとりでも不幸な人のいる限り、自分も幸福にはなれないと思ふ事こそ、本当の人間らしい感情でしょうに、自分だけ、

あるいは自分の家だけのつかの間の安楽を得るために、隣人^{のし}を罵り、あざむき、押し倒し、(いいえ、あなただつて、いちどはそれをなさいました。無意識でなさつて、ご自身それに気がつかないなんてのは、さらに恐るべき事です。恥^ちじて下さい。人間ならば恥^ちじて下さい。恥^ちじるといふのは人間だけにある感情ですから。) ⁵まるでもう地獄の亡者がつかみ合いの喧嘩をしているような滑稽^{こつげい}で悲惨^{ひさん}な図ばかり見せつけられてまいりました。けれども、私はこのように下等な使い走りの生活においても、いちどや二度は、ああ、生れて来てよかつたと思つたこともないわけではございませんでした。いまはもうこのように疲れ切つて、自分がどこにいるのやら、それさえ見当がつかなくなつてしまつたほど、まるで、⁷もうろくの形ですが、それでもいまもつて忘れられぬほのかに楽しい思い出もあるのです。その一つは、私が東京から汽車で、三、四時間で行き着けるある小都会に閨屋の婆さんに連れられてまいりました時のことですが、ただいまは、それをちよつとお知らせ^{いた}しましょう。私はこれまで、いろんな閨屋から閨屋へ渡り歩いて来ましたが、どうも女の閨屋のほうで、男の閨屋よりも私を二倍にも有効に使うようでございます。(中略)私をその小都会に連れて行つた婆さんも、ただものではないらしく、ある男にビールを一本渡してそのかわりに私を受け取り、そうしてこんどはその小都会に葡萄酒^{ぶどう}の買出しに来て、ふつう閨値の相場は葡萄酒一升^{しやう}五十円とか六十円とかであつたらしいのに、婆さんは膝^{ひざ}をすすめてひそひそひそひそいってながい事ねばり、時々いやらしく笑つたり何かしてとうとう私一枚で四升を手に入れ重そうな顔もせず背負つて帰りましたが、つまり、この閨婆さんの手腕一つでビール一本が葡萄酒四升、少し水を割つてビール瓶^{びん}につめかえると二十本ちかくにもなるのでしよう、とにかく、女の

欲は程度を越えています。それでもその婆さんは、少しもうれしいような顔をせず、どうもまったくひどい世の中になったものだ、と大真面目で愚痴をいって帰って行きました。私は葡萄酒の闇屋の大きい財布の中に入れられ、うとうと眠りかけたら、すぐにまたひっぱり出されて、こんどは四十ちかい陸軍大尉に手渡されました。この大尉もまた闇屋の仲間のようなのでした。「ほまれ」という軍人専用の煙草を百本（とその大尉はいつていたのだそうですが、あとで葡萄酒の闇屋が勘定してみましたら八十六本しかなかったそうで、あのインチキ野郎めが、とその葡萄酒の闇屋が大いに憤慨してました）とにかく、百本在中という紙包とかえられて、私はその大尉のズボンのポケットに「Y」ねじ込まれ、その夜、まちはずれの薄汚い小料理屋の二階へお供をするという事になりました。大尉はひどい酒飲みでした。葡萄酒のブランドーとかいう珍しい飲物をチビチビやって、そうして酒癖もよくないようで、お酌の女をずいぶんしつこく罵るのでした。

——「貨幣」より——

(注1) 百円紙幣 —— 一九四〇年代当時、百円は硬貨ではなく

紙幣として発行されていた。

(注2) 腹掛け —— 胸から腹にかけて前身をおおう、職人の作

業着の一種。

(注3) どんぶり —— 腹掛けの前部につけた大きな物入れ。

(注4) 帳場 —— 帳付けや支払いなどを行う場所。

(注5) 取沙汰 —— うわさ。

(注6) 闇屋 —— 戦時中は国家による統制で様々な物資が不足

した。その不足した物資を闇で手に入れ、不正に取引した業者のこと。

(注7) もうろく —— 老いぼれること。

問一 見当もつかなく¹ 膝をすすめて⁶ の本文中での意味はどれか。

- (1) 見当もつかなく
- ① 希望もできなく
 - ② 確認もできなく
 - ③ 成就もできなく
 - ④ 推測もできなく

- (2) 膝をすすめて
- ① 前へにじり出て
 - ② 乗り気になって
 - ③ 相手をさそって
 - ④ 非常に感心して

問二 X Y にあてはまる言葉として最も適切なものは
どれか。

- ① どさつと
- ② むすつと
- ③ そつと
- ④ ぐしやつと

Y

- ① しきりに
- ② たまに
- ③ 無造作に
- ④ 丁寧

問三 神棚²にあげて拝みました とあるがなぜか。

- ① 百円札は、そうそう手にすることができないものだったから。
- ② 若いおかみさんは、お金をすぐに使ってしまいう性格だったから。
- ③ 大工の間では、古くからお金をまつるしきたりがあったから。
- ④ 焼かれず残った旧紙幣は、とても珍しいものだったから。

問四 小耳³にはさみ とあるが、「小耳にはさむ」と同じ意味を表す慣用句はどれか。

- ① 耳につく
- ② 耳にする
- ③ 耳を疑う
- ④ 耳を立てる

問五 東京の変りよう⁴たら とあるが、このときの「私」の気持ちとして適切なものはどれか。

- ① 戦争の準備でせわしなく、娯楽を楽しむ心を忘れてしまった人々に退屈する気持ち。
- ② 旧紙幣が重宝されていた昔と新紙幣を重宝している現在を比べ、以前を懐かしむ気持ち。
- ③ 非合法的な取引を行う業者が街にあふれていても取りしまらない政府にあきれる気持ち。
- ④ すっかりくたびれた自身の姿と活気をなくした街の様子とを重ね合わせ嘆く気持ち。

まるでもう地獄の亡者がつかみ合いの喧嘩をしているような滑稽で悲惨な図ばかり見せつけられてまいりました。とはどういうことか。

① みんなの幸福よりも自分の幸福を優先するのが人間ではないかと「私」は考え、戦時中かどうかに関わらず、自分の欲のために人間が起こした悲しい事件を何度も目の当たりにしてきたということ。

② みんなの幸福より自分の幸福を優先するのが人間ではないかと「私」は考えているが、自分の欲を満たすために他人を散々ないがしろにした事実から目を背けている人間を大勢目の当たりにしてきたということ。

③ みんなの幸福を思うのが人間ではないかと「私」は考え、実際に軍の関係者だけでなく闇屋までもが、戦争に勝利するため必死になって紙幣をかき集める様を何度も目の当たりにしてきたということ。

④ みんなの幸福を思うのが人間ではないかと「私」は考えているが、明日さえ分らない状況になってもなお、他人より自分の欲を優先し足を引っ張り合う様を何度も目の当たりにしてきたということ。

問七 この文章を授業で読んだAさんは、内容をよく理解するために【ノート1】～【ノート3】を作成した。本文の内容をふまえて(1)～(4)の問いに答えよ。

【ノート1】

●「貨幣」

・「婦人朝日」一九四六年二月号初出

☆ 授業で読んだのは、途中までである。

● 作者

・【I】

☆ 津軽出身の小説家。

☆ 主な作品 「走れメロス」「人間失格」「斜陽」

● この文章について

・【II】

【ノート2】

● 百円紙幣とかえられたもの

・おかみさんの着物十枚

・医学生の手鏡一つ

・ビール一本 ↓ 葡萄酒【III】

・軍人専用の煙草「ほまれ」百本（実際は八十六本？）

【ノート3】

● 二〇二三年現在の値段

・着物

☆ 質屋では高い物から安い物まで売られている。

← 古着屋で買う洋服くらい？

← 一枚二千元と仮定…十枚で二万円

・煙草

☆ 一箱二十本入りで六百元近いものが多い。

← 二十本六百元と仮定…百本で三千元

(1) 【Ⅰ】に入る内容として最も適切なものはどれか。

① 芥川龍之介 ② 太宰治 ③ 寺山修司 ④ 川端康成

(2) 【Ⅱ】に入る内容として適切でないものはどれか。

① 読点の多い長めの一文によって、実際に話しているように感じさせる文体になっている。

② 一人称の語りにより、「私」の思いが表現され読者が感情移入しやすくなる効果がある。

③ 紙幣を女性に見立てた理由を示さず、それぞれが想像しながら読めるように描いている。

④ 百円紙幣である「私」の視点を通して、戦時中の日本の時代状況を風刺的に描いている。

(3) 【Ⅲ】に入る内容を漢字二字で抜き出せ。

(4) 【ノート2】を作成したAさんは、百円紙幣の価値に興味を持ち、

【ノート3】を作成した。次に掲げるのは、Aさんが【ノート2】、【ノート3】を見せながら班で発表し、感想を述べ合った授業中の会話である。【Ⅳ】に入る内容を一八字以内で書け。

Aさん…私は「百円紙幣とかえられたもの」に注目しました。【ノート2】を見てください。最初は着物十枚とかえられています。それが、後半では煙草百本とかえられています。次に【ノート3】を見てください。調べたことをもとに、現在の値段に置きかえてみると、仮に着物一枚が二千円だとしても十枚で二万円です。一方、煙草は一箱二十本入りで六百円だとすると百本で三千元です。以上のことから、この文章では百円紙幣の価値が下がったと考えました。

Bさん…そうですね、本文の「お金の女王」から「闇屋の使い走り」になったというところも、Aさんの考えを裏付けるように感じます。

Cさん…私は【ノート3】を見て、これだけで百円紙幣の価値が下がったとは思えないと思いました。なぜならAさんは、【Ⅳ】からです。たとえば、戦前から戦時中にかけての煙草の値段が現在より高いということがあるかもしれませんが、難しいと思いますが、できる限りこの小説の舞台となっている戦前から戦時中の着物や煙草の値段を調べる必要があるのではないのでしょうか。

5 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(31点)

テレビ局を辞めたばかりの頃、私は「素人の制作した映像など、見るに堪えないのではないか」と思っていた。I、私が「素人」と思い込んでいた人は、「素人」ではなかったのだ。彼らは、生活や仕事など様々なフィールドで活躍するその道の「プロ」であり、問題に向き合う姿勢は、一時的に「ネタ」として取材するプロのジャーナリストに比べ、より真剣である場合が少なくない。

例えばワークシヨップの受講生に、東京の郊外で農業に携わっている人がいた。彼は、派遣会社が経営する「農園」を取材するチームにたまたま参加した。この「農園」は大手銀行が金庫として使用していた東京・大手町のビルの地下につくられたものだった。朝日新聞の一面トップでも報じられたこの農園は、記事によると、コンピュータ制御による人工照明や室温調整などのハイテクを駆使し、無農薬のトマトやレタスを生産。職に就いていない若者やリストラされて失業中の中高年の就農支援のために農業研修の場として期待されているとある。

ところが、彼は、この「農園」に隠された様々な問題を指摘する。国は、効率の良い大規模な株式会社による農業をすすめ、農業分野で働く派遣労働者を育成する農業研修に補助金を出していた。だが、彼に言わせれば、新たに農業を目指す人の多くは、より小規模で自然を求めており、彼らが、株式会社の経営する大規模な農業の労働者として就業するとは思えないというのだ。農業の課題は別のところにあるという。

彼の話を聞けば聞くほど、つい表面的なもの珍しさに飛びついてしまう記者の問題意識の浅さを痛感した。同時に、この受講生のように地に足をつけて日々、自分の分野でコツコツ仕事をしている人

たちの知識や経験に学ぶことがあまりにも多いことに気づいたのである。

戦後生まれた「近代ジャーナリズム」では、「ジャーナリズム」の担い手は一部のプロのジャーナリストに限られ、「中立公正」が原則とされている。このため、当事者によるメディアや発信に対し、非常に風当たりが強い。

しかしジャーナリズムの語源は、「日々書く日記」だと言われる。個人個人が尊重される、より公正で平等な社会を目指すには、国益を優先しがちなマスメディアに頼るのではなく、社会を構成する個人が自ら情報の担い手となり、情報の多様性を確保するしかない。

私は活動を通じて、そう考えるようになった。映像のみならず、まさに「日記」であるブログを含め、多くの人が日々を記録し発信することこそ、権力から距離を置いた新たな「ジャーナリズム」が実現できることを理解したのである。【中略】

政治的な議論の場である公共圏(注1)は、長い間、男性に占有されてきた。ドイツの哲学者ハーバーマスでさえ、一九八〇年代に自らの代表的な著作である『公共性の構造転換』を改訂する際、公共圏の視点から、ジェンダーの視点が抜けていたことを認め、反省の弁を連ねている。本来なら、公共圏から取り残されてきた、女性、外国人、高齢者、地方の人々など、周縁に置かれた人びとこそ、オーマイ(注2)ニュースのような新しい市民参加型メディアの主役であるべきなのに、その数はわずかだった。

私はこの時まで、インターネットさえあればメディアにおけるほとんどの問題は解決できると考えてきた。しかし、オーマイ(注3)ニュースに関わりネットユーザーの属性を学ぶうちに、より社会から疎外されている人がメディアにアクセスするためには、インターネットだけでは限界があると感じるようになってきた。

実際に二〇〇九年、女性とメディアに関するシンポジウムを開催した際、シングルマザーのほとんどが日頃パソコンを利用しておらず、テレビと携帯電話に頼っていることがわかった。携帯電話も通話かメールが中心で、ウェブサイトにアクセスすることはほとんどないという。

Ⅱ、別の講演の席で、私はある人からこんなことを言われた。「インターネットは自由というが、自分たちのような被差別部落出身者をのしるような口汚い発言も多く、差別的で見る気もしない。戸籍の名簿が流れることもあり、やりきれない」。インターネットでの激しいやりとりや誹謗中傷が多く、近寄れないというのだ。

欧米などの国々では、社会的マイノリティの多様な声を反映させるため、テレビやラジオに市民が参加できるパブリックアクセス制度の導入をはじめ、メディアの多元性を確保するために様々な政策がとられている。また同時に、⁵外見や出自などによる差別は許されないという強い共通認識がある。それに比べ、日本の状況はとても厳しい。テレビの放送は画一的だし、政治家が平然と差別発言をしても、とがめられない。このため、外国人差別、女性蔑視、部落差別などが横行している。

Ⅲ、インターネットの世界では、より発信力の強い人の情報が広く拡散する作用があるため、情報強者と弱者の格差はますます広まっているように見える。

こうした言論空間のゆがみを是正していくためには、日本においても、誰もが自由にインターネットを使えるような仕組みを整えるとともに、パブリックアクセスなど、市民のための公共的な言論空間を確保することが大切と考えるようになった。

日本では、マスメディアや学校の教育現場において、インターネットはともすると「よくないもの」「信頼できないもの」という

側面ばかりが強調されている。インターネットに対する正しい知識や使い方が十分に普及していないことが、こうした格差や誤解に拍車をかけているように思う。実際、総務省が二〇〇九年、ICTの国際動向を調査したところ、セキュリティやプライバシーなどインターネットに不安を感じている人の割合は、OECDに加盟している七カ国（デンマーク、スウェーデン、英国、米国、シンガポール、韓国）のうち日本が一位だった。

インターネットは、私から見れば、⁷包丁のようなものである。多くの人は毎日当たり前のように包丁を使って料理をし、便利に日常生活を送っている。Ⅳ 使い方によっては人に危害を加えることもあるが、それはあくまで例外だ。包丁は危ないから使うのを止めてくださいとは、まず言わないだろう。むしろ子どもの頃から包丁を持つて料理をすることは、「良し」とされているはずだ。

それと同じように、インターネットも小さい頃から大人と一緒に楽しむことで、⁸多様な情報に触れる技術を学ぶことができる。同時に、セキュリティを含め、インターネットのメリットとリスクを理解できるに違いない。よく問題となる出会い系サイトなどの事件は、さみしさや子どもならではの出来心から起こる問題で、たまたま携帯電話が身近な道具として活用されているに過ぎず、インターネット自体を危険視しても意味はない。

これまで差別されてきた側、多様な立場の人が、インターネットをはじめ、あらゆる言論や、表現の世界に参画できることは、極めて重要だ。多くの多様な人たちの声で、言論空間を豊かにすれば、きっと状況はぐっとよくなるだろう。そして差別的な言論に関しては恐れずに、「これは差別であり、問題だ」と多くの人が連帯して、きちんと反論することが大切だと思う。

(注1) 公共圏 —— 人々が共通な関心事について語り合う空間。

(注2) オーマイニユース —— 韓国で設立された市民参加型の

インターネット新聞サイト。

(注3) ICT —— 情報通信技術。

(注4) OECD —— 経済協力開発機構。

問一 痛感² 拍車をかけて⁶ の本文中での意味はどれか。

(1) 痛感

- ① 身にしみて感ずる
- ② 身近に感じる
- ③ 痛みをともなう
- ④ 初めて理解する

(2) 拍車をかけて

- ① 多くの人に広めて
- ② 一段と進めて
- ③ 勢いを弱めて
- ④ 数を増やして

問二 空欄 I II III IV に入る語の組み合わせ

せとして最も適当なものはどれか。

- | | | | | | | | | |
|---|---|------|----|-----|-----|-----|----|------|
| ① | I | 確かに | II | つまり | III | だから | IV | おそらく |
| ② | I | だから | II | 一方で | III | さらに | IV | きつと |
| ③ | I | しかし | II | また | III | しかも | IV | 確かに |
| ④ | I | けれども | II | 次に | III | むしろ | IV | つまり |

問三 れ¹ と文法的に同じ働きのものはどれか。

- ① 帰り道、雨に降られてしまった。
- ② この歌を聞くと、故郷が思い出される。
- ③ 先生は難しそうな本を読まれる。
- ④ 嫌いだつた物が、食べられるようになった。

問四 社会を構成する個人が自ら情報の担い手となり、情報の多

様性を確保するしかないのはなぜか。

- ① マスメディアはどうしても利益を優先してしまい、取り上げる分野にも偏りが見られるが、コツコツ仕事をしている人たちは、利益を追い求めずに情報を提供するから。
- ② マスメディアは一時的に「ネタ」として取材をしているが、自分の分野で仕事をする個人は、常に利益を追い求めるため、より真剣に仕事に向き合っているから。
- ③ マスメディアが国益を優先しがちなのに対し、個人のジャーナリズムを実現させ、それぞれの立場に立って考えた人の意見を発信することで公正公平な社会を目指せるから。
- ④ マスメディアは公正で平等な社会を目指して取材をしているが、コツコツ仕事をしている人たちは、まず目の前の問題に向き合っており、よりリアルな体験談を聞けるから。

問五 より社会から疎外されている人がメディアにアクセスするた
めには、インターネットだけでは限界があると感じるようにな
ってきたとあるが、筆者はどんな解決策を提示しているか、
七十五字以内で探し、始めと終わりの五字を抜き出せ。

問六 それ⁵の指す内容を、解答欄に続くように六十字以内で書け。

問七 包丁⁷のようなものとあるが、インターネットと包丁の共通
点として適切でないものはどれか。

- ① 小さい頃から触れることで、技術を身につけられる点。
- ② 積極的に使うことで、長所も短所も理解できる点。
- ③ 使い方によっては人に危害を与えてしまう点。
- ④ 危ないからという理由で使用を制限される点。

問八 多様な情報に触れる技術を学ぶことができる⁸ はいくつの文
節からできているか。

- ① 6
- ② 7
- ③ 8
- ④ 9

問九 この文章の出典『メディアをつくる』は二〇一一年に発行さ
れた。それをふまえて、生徒に感想を述べさせた。本文の主旨
に合うものはどれか。生徒を二人選べ。

生徒A…インターネットにはメリットもデメリットもあるけれど、
利用する中でそれらを理解していきたいね。そして、情報を
取捨選択する技術を身につけて利用していきたいな。

生徒B…筆者は、社会から疎外された人の例としてシングルマザー
を挙げているけど、現代ではスマートフォンが普及している
から、シングルマザーはまったく疎外されていないよね。

生徒C…現代ではインターネットが生活に浸透していて、小さい頃
から触れられているね。SNSの普及で多様な意見を発信し
やすくなった今だからこそ、公正な社会を作るチャンスだね。

生徒D…私は将来報道の仕事に就きたいと思っているんだ。影響力
のある政治家の言葉より、社会に声が届きづらい人の意見だ
けを取り入れていきたいな。

生徒E…私はよく親にインターネットを使わないように注意される
よ。SNSの普及で誹謗中傷や心ない言葉も簡単に発信でき
るから、見ないように気を付けているんだ。

